

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について

教科の調査結果にみられる特徴と現状分析

◆国語について

国語への関心について、全国平均・県平均を上回り、興味・関心を持って学習に取り組んでいることが分かった。「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の領域について、県平均と同等の正答率となっている。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において、全国平均に対して103.7%の正答率となっている。基礎基本の知識を活用し、最適な解答を選ぶ選択式の問題では県平均を上回る正答率となっている。同様に、活用力の短答式の問題については、昨年度の数値より15.8%の上昇がみられた。一方で、記述式の問題では、昨年度と同様に全国平均を下回り、記述力の課題がみられる。

◆算数について

算数への関心について、全国平均・県平均を上回り、興味・関心を持って学習に取り組んでいることが分かった。「図形」の領域の問題で、昨年度の数値より1%ほど正答率の上昇がみられた。「量と測定」については、昨年度と同等の正答率となっている。基礎基本の知識・技能を活用して、最適な解答を選ぶ選択式の問題において解答率が高かった。一方で正答率は全国平均・県平均と同等の結果であった。「数と計算」の領域では、除法(わり算)の問題で正答率が低かった。記述式の問題も同様に除法(わり算)についての記述であったため、正答率が低くなっている。除法(わり算)の仕組みの理解について課題がみられる。

改善計画等

本校児童は、国語・算数への関心が高く、意欲を持って取り組んでいることが分かった。個々に正答率が低かった領域・問題を分析すると、いくつかの課題が明らかになり、それらの課題を整理し支援していくことで更なる伸長が期待できると考える。

◆国語について

「伝統的な言語文化と国語に関する事項」は「漢字」「接続詞」「ことわざ」の問題であった。全国平均を上回った結果から、引き続き漢字ドリルを使ったドリル学習や宿題等の家庭学習を通して「言葉」に対する力を付けていく。一昨年度より、3年生以上では、辞書引きの学習にも力を入れている。辞書を引くことを習慣づけ、語彙を増やしていくと共に、自分が分からないことや知らないことを調べる力を付けさせていく。

「書くこと」の領域では、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする」ことについての問題となっており、若干全国平均を下回っているため、重点的に指導を行っていく必要がある。日記や感想などの短文を書く活動を継続的に行っていく。国語に限らず、教科横断的に短文を使って自分の考えをまとめる指導を行う。

学校図書館や市立図書館を活用し、読書活動を継続的に行っていく。発達段階に応じた本を教師から推薦し、長い文章を読むことで語彙の獲得と表現方法の豊かさを身に付けさせる。文章を書くための技能を身に付けるために、学習単元の初めには必ず教師見本を提示し、見通しを持って学習できるようにする。

「話すこと・聞くこと」の領域では、「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる」ことについての問題となっており、正答率が78.7%で全国平均を下回った。小グループでの話し合い活動を取り入れ、相手と自分の意見の比較を行わせる。その活動を通して自身の考えに深まりを持たせると同時に、自他の意見を認め合い温かい雰囲気の中で学習できるよう指導する。

◆算数について

「図形」の領域では、「台形の性質や構成要素」についての問題であり、昨年度より正答率の数値の上昇がみられた。「図形」の領域では、これまで分かりやすい具体物を提示し図形の性質や構成要素について理解を深められるよう指導を行ってきた。今後についても、同様に具体物を活用した指導を行っていくと共に、更なる知識・理解の向上につながる手立てを取っていく。

「数量関係」の領域は、「棒グラフから資料の特徴や傾向を読みとる」ことについて、全国平均を若干下回ったため重点的に指導を行っていく。棒グラフの読み取りをする際に、一単位(一人あたり)の数量の求め方を指導していく。

「数と計算」の領域では、「示された計算の仕方を解釈し、計算しやすい式にして計算する」ことについての問題で、特に除法(わり算)について正答率が低かった。わり算の意味について理解し、「わる数」「わられる数」をしっかり見極められるよう指導をしていく。計算ドリルを使ったドリル学習だけでなく、学習プリントを使った反復計算を行い基礎的な計算力の定着を図っていく。

学習状況調査のうち、特徴的なもの

質問項目	江戸小	全国	質問紙の調査結果にみられる特徴と現状分析
好ましい習慣が多かったもの(特徴的なものの抜粋)			・特徴的なものを抜粋して掲載した。好ましい習慣が身につけている項目と、改善が必要な項目について分析を行い、子ども達のよりよい成長のために日々取り組んでいきたい。
将来の夢や目標を持っている	88.9	83.8	・将来の夢や目標を持っている児童の割合が全国平均より高い。自分の夢に向かって努力をするという高次な意欲につながるよう、日々子ども達に支援や励ましを行い、将来に対する前向きなビジョン形成につながるような教育活動をさせていきたい。
自分にはよいところがあると思うか	92.6	81.2	・いじめに対して99%の児童がいけないものだという意識を持っていた。これは日々の生活での生徒指導や道徳の日、道徳の授業において道徳心が育まれてきた証と捉えられる。子どもがそれぞれの個性を尊重し、互いに認め合う温かな心を引きつづき育て、いじめゼロを子どもと教師の合言葉として生活していきたい。
いじめは、どんな理由があってもいけないことだ	99.0	97.1	・1時間以上日々読書をする児童の割合が高い。葉の会やお話玉手箱の方々に読み聞かせを行ってもらうことにより、本に親しみを持ってたと考えられる。今年度は教師による読み聞かせも月に1回行ってきた。これらの活動の積み重ねから、日々の読書習慣形成につながっていると考えられる。また、学校図書館を整備したり、子どもが本を手に取りやすいような校内環境整備に努めてきた結果と捉えられる。今後も読書好きな児童の育成に努めていきたい。
失敗を恐れずに挑戦していますか	82.4	79.0	・平日家庭で3時間以上勉強している児童の割合が全国平均より高い一方、平日の勉強時間が30分以下の児童の割合が20%ほどであった。学校の宿題や授業の予習・復習等において、自分で計画を立てて家庭学習をする習慣が身に付くよう、家庭と連携しながら引き続き指導にあたっていきたい。
平日に家で、2時間以上勉強している	39.8	29.3	・規則正しい生活習慣について、再度指導を行っていく必要がある。朝食を毎日食べている児童と食べていない児童では、国語・算数共に正答率に30%近い差がみられた。十分な睡眠と朝食の大切さについて、家庭と連携を取りながら指導を行っていきたい。
学校の授業時間以外、1日1時間以上読書をする	22.2	18.3	・これからのグローバル社会への対応として、外国への関心を高めていけるような指導をしていきたいと考える。全国平均と同等ではあるが、外国語教育や総合的な学習の時間など教科横断的に、指導をしていくことでこれからの社会を担う一員となることを期待している。
学校のきまりを守っていますか	95.4	92.3	
改善が必要なもの(特徴的なものの抜粋)			
朝食を毎日食べますか	93.5	95.3	
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか	80.5	81.4	
自分で計画を立てて勉強していますか	68.5	71.5	
外国の人と友達になったり、外国のことについて知ったりしたいですか	68.5	68.6	
授業以外で図書室や地域の図書館に週1回以上に行きますか	6.5	17.2	